

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者のがん診療に関する情報の普及・啓発に関する研究

研究分担者 水谷 友紀 杏林大学医学部
総合医療学/腫瘍内科学 講師

研究要旨 多老年腫瘍学は、がんを持った高齢患者を対象とする学問である。世界でも比較的あたらしい領域であり、日本ではまだ馴染み深くない。また、がんを持った高齢患者にとって何が適切な医療なのか、については腫瘍学だけでなく老年医学の考え方からも学ぶ必要がある。さらに、治療方針を決めるのは医者だけでなく、多職種と協働する必要があるが、これらが一堂に会する場所がなかった。このため、2021年4月に、任意団体として、日本老年腫瘍研究会（Japan Geriatric Oncology Society; JGOS）を設立した。また、2021年11月に同ホームページを公表し、高齢者のがん診療に関する情報を集約し、その情報を発信している。

A. 研究目的

老年腫瘍学は、がんを持った高齢患者を対象とする学問である。世界でも比較的あたらしい領域であり、日本ではまだ馴染み深くない。日本も含めた世界の研究者、臨床家が発展に努めており、欧米を中心に老年腫瘍学専用のグループが立ち上げられているが、日本では、老年腫瘍学に関するデータを集約する場所がなかったため、医療者は診療に必要な情報を得るのに苦労していた。また、がんを持った高齢患者にとって何が適切な医療なのか、については腫瘍学だけでなく老年医学の考え方からも学ぶ必要がある。さらに、治療方針を決めるのは医者だけでなく、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士、メディカルソーシャルワーカーなど多職種の医療従事者が協働する必要があるが、これらが一堂に会する場所がなかった。このため、日本老年腫瘍学研究会を設立し、ホームページにより、高齢者のがん診療に関する情報の普及・啓発をすることを目的として、本研究を実施した。

B. 研究方法

老年腫瘍学の専門家を中心に、腫瘍科医、外科医、精神腫瘍科医、疫学者、理学/作業療法士、情報提供の各専門家などの老年医学または腫瘍学に精通した多職種が参画し、高齢

者のがん診療に関する情報の普及・啓発をするための方策を議論した。

（倫理面への配慮）

本試験は患者を対象とした研究ではないため、「臨床研究法」や「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の適用範囲外である。

C. 研究結果

多職種で議論した結果、2021年4月に、任意団体として、日本老年腫瘍研究会（Japan Geriatric Oncology Society; JGOS）を設立した。また、2021年11月に同ホームページを公表し、高齢者のがん診療に関する情報を集約し、その情報を発信した。



本研究会の基本理念は以下である。

- 老年腫瘍に関する情報を収集してホームページに掲載する
- その際、腫瘍学領域からだけでなく、老年医学領域の情報も提示する
- 様々な質の情報が存在しているため、科学的で信頼できる情報を選び出し、提示する
- 情報収集に偏りが生まれる可能性は否定できないが、情報提供については「事実：科学的根拠に基づく情報」と「意見：専門家や学会などの提言・見解に関する情報」を区別して発信する
- 「提言・見解」については、多職種の研究学会メンバーが科学的根拠をもって議論した上での研究会としての意見を掲載する
- また、視点の位置によって意見は変わらうため、どの視点からの意見かを明確にする(例：いち臨床医の視点なのか、行政の視点なのか)

D. 考察

我々は日本老年腫瘍研究会を設立し、ホームページを通じて、情報発信をした。今後は、年に2回程度、対面式またはWEBでの勉強会を開催し、更なる情報発信に努める。一方、看護師や薬剤師などのメンバーがふそくしているため、更に多職種メンバーを揃え、学際的な情報発信ができればと考えている。

E. 結論

高齢者のがん診療に関する情報の普及・啓発を目的として、日本老年腫瘍学研究会を設立し、そのホームページにより情報発信をした。この活動を通して、高齢がん患者さんが「がん」とともに生き、豊かな人生を送れるようになることを願っている。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

論文発表

1. 未定

学会発表

1. 西山菜々子、水谷友紀、他：日本老年腫瘍研究会：高齢者のがん医療に関する情報の発信、老年腫瘍学の普及・啓発を目指した多職種有志による取り組み 第27回日本緩和医療学会学術大会

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他

特記すべきことなし